

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	E C Cアーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の 単位数又は授 業時数	省令で定める 基準単位数又 は授業時数	配 置 困 難
文化教養 専門課程	アーティスト学科 ビューティアドバイザ ーコース	夜・ 通 信	1800 時間	160 時間	
	アーティスト学科 ネイリストコース	夜・ 通 信	1800 時間	160 時間	
	アーティスト学科 ブライダル・ウェディン グコース	夜・ 通 信	1800 時間	160 時間	
	トータル・メイク学科 トータルビューティス タイリストコース	夜・ 通 信	2700 時間	240 時間	
	トータル・メイク学科 ヘアメイクアーティス トコース	夜・ 通 信	2700 時間	240 時間	
	プロ専科 トップスタイリストコ ース	夜・ 通 信	900 時間	80 時間	
	トータルビューティ基 礎学科	夜・ 通 信	900 時間	80 時間	
衛生専門課程	美容科	夜・ 通 信	2430 時間	160 時間	

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

Webサイトにて公表。【URL】

<https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	ECCアーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-about.pdf>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元大阪府議会議員 (1983.5.1~2011.4.30) 2011.5.1以降は「無職」	1991.11.15～ 2027.3.31	学校経営に関するこ と
非常勤	税理士事務所経営 (1984.6.1～)	2010.6.1 ～ 2027.3.31	財務に関すること

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	E C C アーティスト美容専門学校
設置者名	学校法人山口学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。	
授業計画書の公表方法	Webサイトにて公表。【URL】 https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えている。 第4章 単位認定 第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 (1) 授業出席率が75%(アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度入学生より全科目85%)以上であること。 (2) 総合評価点が60点以上であること。 第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される 「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、卒業該当学年の各コースに設定された単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。規定は HANDBOOK で学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	ECC アーティスト美容専門
設置者名	学校法人山口学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance002.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance001.pdf
財産目録	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance003.pdf
事業報告書	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-project.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/gakuen-finance004.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 ビューティアドバイザーコース	○		—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 750	演習 1050	実習	実験	実技
2 年	昼間	1710 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1800 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数
284 人の内数		86 人	1 人	4 人	11 人		15 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/ 【教育目標】 化粧品知識・販売技術（英語を含む）を修得すると共に、コミュニケーション能力（マナー、度胸）に優れた一流のビューティアドバイザーを育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業ま

でに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

(専門力/人間力)

- ・TBA（メイク技術・接客技術・筆記）試験において学内合格水準を満たすこと。
- ・「JBMAメイクアップ検定 Expert コース」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。
- ・「化粧品検定2級」を取得していること。もしくは同等の知識を習得していること。

(国際力)

- ・化粧品販売現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できるようになる。

(人間力)

- ・柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。
- ・一般常識テストにおいて学内合格水準を満たすこと。

(ICT 活用力)

- ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになる。

【カリキュラムポリシー】

ディプロマポリシーに掲げる力を習得したビューティアドバイザーになるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・クレンジングからフルメイクまでのメイクアップ基礎技術・知識を習得する。(1 年次)
- ・イメージメイク・年代別メイクの基礎技術・知識を習得する。(1 年次)
- ・綺麗な立ち居振る舞い、接客用語等の接客に関わる基礎技術・知識を修得する。(1 年次)
- ・色彩学、パーソナルカラー等色彩に関わる基礎技術・知識を修得する。(1 年次)
- ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1 年次)
- ・接客を交えたメイク技法、ファッションなどの流行の要素を取り入れたボリューム感・スケール感のあるメイクアップ技法等のメイク応用技術・知識を習得する。(2 年次)
- ・コスメ販売の技術・知識をケーススタディにより習得する。(2 年次)
- ・実践的なメイク技術・接客技術を習得し、現場実践力を習得する(2 年次)
- ・プレゼンテーションに関わる技術・知識を習得する。(2 年次)
- ・グローバル社会に対応すべく、美容部員の業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。(2 年次)

成績評価の基準・方法

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%）以上であること。
- (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点） 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

（卒業の要件）教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えたいと同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

（進級の要件）進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等

（概要）

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39 人 (100%)	0 人 (0%)	39 人 (100%)	0 人 (0%)
（主な就職、業界等） Dior、シャネル、イプサ、ジバンシィ、ゲラン、アルビオン、SK-II、クラランス、 H2O、キールズ、ジェイアール西日本伊勢丹、近鉄百貨店など			
（就職指導内容） ・ 求人情報提供、・ 業界／職種研究指導、・ 学内企業説明会企画、招聘、実施 ・ 就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など） ・ 履歴書添削、・ 面接指導、・ 就職保護者会、・ 未内定者面談など			
（主な学修成果（資格・検定等）） ・ JBMA メイクアップ技術検定 Basic コース 92.7%（38 人/41 人） ・ JBMA メイクアップ技術検定 Professional コース 91.7%（11 人/12 人） ・ JBMA メイクアップ技術検定 Expert コース 65.9%（27 人/41 人） ・ 化粧品検定 2 級 62.5%（25 人/40 人）			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89 人	18 人	20.2%
（中途退学の主な理由） 金銭面、進路変更、人間関係等		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 ネイリストコース		○		—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義 300	演習 1500	実習	実験	実技	
2 年	昼間	1710 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			1800 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
284 人の内数		29 人	0 人	4 人	11 人		15 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/ 【教育目標】 ネイルの幅広い知識と技術を習得しネイル関連検定を取得すると共に、あらゆる年齢層の顧客ともコミュニケーション・接客ができる素直で元気ある人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された検定試験・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。 （専門力） ・ネイル系検定「JNEC ネイリスト技能検定1級」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 ・ネイル系検定「JNA ジェルネイル検定上級」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 ・ネイル系検定「JNA フットケア理論検定」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 ・ネイル系資格「衛生管理士」を取得している。もしくは同等の技術を習得していること。 （国際力） ・ネイルサロン現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できるようになる。 （人間力） ・「サロン実習」での接客技術が合格水準を満たしていること。 （ICT 活用力） ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになる。 【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得したネイリストになるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。 ・ネイル理論を修得し、ネイル技術の基礎となるネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ技術を習得し、ネイリスト技能検定3級・2級の取得を目指す。（1年次） ・ジェルネイルの基礎を修得し、ジェルネイル検定初級を取得する。（1年次） ・2年次でのサロンワーク実習に向けて、サロンで必要となる実践技術、知識を習得する。（1年次） ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1年次） ・フレンチスカルプチュアの技術修得し、ネイリスト技能検定1級を目指す。（2年次） ・ジェルネイルの上級技術を修得し、ジェルネイル検定上級を取得する。（2年次） ・学内サロンにて実践的なネイル技術・サロンワーク・接客技術を修得する。（2年次） ・グローバル社会に対応すべく、ネイルサロンで使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（2年次）
成績評価の基準・方法
（概要） 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点） 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点） 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

（卒業の要件） 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対し

て、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14 人 (100%)	0 人 (0%)	13 人 (92.9%)	1 人 (7.1%)
(主な就職、業界等) AVANCE、リノアネイル、P&B、サンミーゴネイル、NAIL bar、アイネイルズ nail salon TIFFA、chula.neil&eye、マウム			
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など） ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談など			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・JNEC ネイリスト技能検定 1 級 66.7% (10 人/15 人) ・JNEC ネイリスト技能検定 2 級 85.7% (12 人/14 人) ・JNA ジェルネイル技能検定上級 64.3% (9 人/14 人) ・ネイルサロン衛生管理士 93.3% (14 人/15 人) ・JNA フットケア理論検定 64.3% (9 人/14 人)			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
31 人	3 人	9.7%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化教養専門課程	アーティスト学科 ブライダル・ウェディ ングコース	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 780	演習 1020	実習	実験	実技
2 年	昼間	1710 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			1800 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
284 人の内数		6 人	0 人	2 人	3 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

概要）

本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も 3 月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Web サイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: <https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art>

【教育目標】

ブライダルの国家資格であるブライダルコーディネーター技能資格 3 級を取得する知識・技術を修得すると共に、ブライダル全般に及ぶ幅広い知識（プランニング、コスチューム、ヘアメイク、空間コーディネート）と技術を兼ね備え、入社後即戦力となる人材を育成する。

【ディプロマポリシー】

コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。

（専門力）

- ・国家試験ブライダルコーディネーター技能検定 3 級を取得する。

（専門力/人間力）

- ・ブライダル実践イベントである「スマイルウェディング」学内合格水準を満たすこと。
- ・ブライダル実践イベントである「ハートフェルトウェディング」学内合格水準を満たすこと。
- ・外部研修授業である「インターンシップ」において学内合格水準を満たすこと。

（国際力）・ブライダルの現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できるようになる。

（ICT 活用力）

- ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになる。

【カリキュラムポリシー】

ディプロマポリシーに掲げる力を習得したブライダルプランナー及びコスチュームアドバイザーになるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。

- ・ブライダルプランナーとしての基礎技術・知識を習得する。（1 年次）
- ・ブライダルコスチュームの基礎技術・知識を習得する。（1 年次）
- ・ブライダルヘアメイクの基礎技術・知識を習得する。（1 年次）

・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（１年次） ・ブライダルプランナーとしての応用技術・知識を習得し、ブライダルコーディネータ技能検定３級を取得する。（２年次） ・ブライダルコスチュームの応用技術・知識を修得する。（２年次） ・ブライダルヘアメイクの応用技術・知識を習得する。（２年次） ・グローバル社会に対応すべく、ブライダル業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（２年次）				
成績評価の基準・方法				
（概要） 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。 第４章 単位認定 第７条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 （１）授業出席率が７５％（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は８０％、２０２２年度生より全科目８５％）以上であること。 （２）総合評価点が６０点以上であること。 第８条（総合評価点） 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される 「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第９条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第１０条（学期末試験・評価） 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く） 第１１条（成績評価ランク） 算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。				
総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
９０点～１００点	A	４．０	合格	特に優れている。
８０点～８９点	B	３．０	合格	優れている。
７０点～７９点	C	２．０	合格	一定の水準を満たしている。
６０点～６９点	D	１．０	合格	最低限の理解をしている。
０点～５９点	F	０．０	不合格	学習目標に達していない。
２ GPA の適用 GPA とは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPA を適用している。 履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「４」、「３」、「２」、「１」、「０」の GP (Grade Point) を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、１単位あたりの成績の平均値である。 ３ GPA の算出方法 （４×「A」の単位数＋３×「B」の単位数＋２×「C」の単位数＋１×「D」の単位数＋「F」の単位数×０）÷ 総履修登録単位数				

※特別単位はG P Aの計算に算入されない。
HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf
卒業・進級の認定基準
(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf 卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56 単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	11 人 (100%)	0 人 (0%)	9 人 (81.8%)	2 人 (18.2%)
(主な就職、業界等) デコルテ株式会社、FOUR SIS&CO、アンテリーベ、エスクリ、株式会社一蔵 Dress Benedetta、 など				
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など） ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談など				
(主な学修成果（資格・検定等）) ・ブライダルコーディネーター技能検定 3 級 80.0% (8 人/10 人) ・BIA 認定アソシエイトコーディネーター 100% (7 人/7 人) ・マナー・プロトコール検定 3 級 71.40% (5 人/7 人)				
(備考) (任意記載事項)				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19 人	2 人	10.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養		文化教養専門課程	トータル・メイク学科 トータルビューティ スタイリストコース	○	—
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類		
			講義 450	演習 2250	実習 実験 実技
3 年	昼間	2550 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数
270 人の内数		67 人	0 人	3 人	10 人
					総教員数 13 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/ 【教育目標】 ヘアメイクアーティスト、美容師、ネイリスト、アイリスト、になるため、各専門力をバランスよく習得すると共に、海外からのお客様に物応じすることなく接客できる国際力を習得し、将来的に多方面で活躍できる人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。 （専門力） ・「美容師国家試験」に準じる学内卒業試験に合格していること。 ・「JNEC ネイリスト技能検定1級」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。 ・「国際アイラッシュ協会検定1級」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。 ・「JBMAメイクアップ検定 Professional」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。

・作品撮影（ブック製作/プレゼンテーション）が学内合格水準を満たすこと。 （人間力） ・柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。 （国際力） ・サロン・美容現場において英会話を使い、グローバルな人材層に接客対応できるようになる。 （ICT 活用力） ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになる。 【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容技術者になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。 ・クレンジングからフルメイクまでのメイクアップ基礎技術・知識を習得する。（1 年次） ・ヘアアレンジの基礎を習得し、作品イメージに合ったヘアスタイルができるようになる。（1 年次） ・ネイルケア・カラーリング・チップ&ラップ、アート等の基礎技術・知識を習得する。（1 年次） ・色彩学、デッサン、ファッションの基礎技術・知識を習得する。（1 年次） ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（1 年次） ・撮影技術、データ加工技術を習得する。（1 年次） ・美容師国家資格取得に必要な技術・知識を習得する。（1～3 年次） ・顔分析法によるメイク技術、年代別・シチュエーション別、ブライダルメイク等の応用技術・知識を習得する。（2 年次） ・スカルプチュアの応用、ジェルネイル、ミックスメディアアート等のネイル技術・知識を習得する。（2 年次） ・グローバル社会に対応すべく、美容業界で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を習得する。（2 年次） ・テーマやシーンからイメージし、ヘアアレンジ応用技術を習得する。（2 年次） ・ヘアメイク、ファッションの応用技術であるトータルスタイリングに関する技法を習得する。（3 年次） ・ジェルネイルの中級・上級技術を習得する。（3 年次） ・アイラッシュ技術を習得する。（3 年次） ・着付けの基礎技術・知識を習得する。（3 年次） ・サロン・美容現場において英会話で接客できる技術を習得する。（3 年次）
成績評価の基準・方法
（概要） 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。 第4章 単位認定 第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%）以上であること。 （2）総合評価点が60点以上であること。 第8条（総合評価点） 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

（卒業の要件）教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えけると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

（進級の要件）進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等

(概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19 人 (100%)	0 人 (0 %)	18 人 (94.7%)	1 人 (5.3%)
(主な就職、業界等) mod's hair、K-two、長沼、y.be、HAIR TIME、SYAN、ARCHE、REBECCA、 Lila、SIGMA、ALICE by AFLOAT など			
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画、招聘、実施 ・就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など） ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談など			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・JBMA メイクアップ技術検定 Expert コース 100%（10 人/10 人） ・JNEC ネイリスト技能検定 1 級 33.3%（6 人/18 人） ・JNA ジェルネイル技能検定上級 72.2%（13 人/18 人） ・国際アイラッシュ資格 1 級 75%（6 人/8 人） ・ネイルサロン衛生管理士 100%（20 人/20 人）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
67 人	3 人	4.5%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
文化・教養	文化教養専門課程	トータル・メイク学科 ヘアメイクアーティストコース	○	—

修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 450	演習 2250	実習	実験	実技
3 年	昼間	2550 単位時間／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			2700 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
270 人の内数		181 人	0 人	7 人	12 人	19 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/ 【教育目標】 メイクに関する幅広い職種に対応できる知識と技術力を備え、国内外で活躍できる人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。 （専門力） ・「美容師国家試験」に準じる学内卒業試験に合格していること。 ・「J BMAメイクアップ検定 Professional」を取得していること。もしくは同等の技術を習得していること。 ・作品撮影（ブック製作/プレゼンテーション）が学内合格水準を満たすこと。 ・インターンシップにおいて学内合格水準を満たすこと。 （人間力） ・柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。 （国際力） ・サロン・美容現場において英会話を使い、グローバルな人材層に接客対応できるようになる。 （ICT 活用力） ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになる。 【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容技術者になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。 ・ブラッシング・ピン止め～夜会巻き・カールアップ・日本髪等のヘアアレンジの基礎を習得する。（1 年次） ・ヘアメイクに必要な発想力、デザイン力、カラー知識、デッサン力を習得する。（1 年次） ・照明やカメラについて撮影に関する基礎技術・知識を習得する。（1 年次） ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育

成する。(1～2年次) ・美容師国家資格取得に必要な技術・知識を習得する。(1～3年次) ・顔分析、撮影メイク、ブライダルメイク、年代別メイク、ペイントメイク、質感メイク等のメイク応用技術・知識を習得する。(2年次) ・基本を踏まえたあらゆるアレンジ技法等のヘアアレンジ応用技術・知識を習得する。(2年次) ・着付けの基礎技術・知識を習得する。(2年次) ・似合わせメイク、グローバルコミュニケーションメイク、カウンセリングメイク等のメイク高度技術・知識を習得し実践力を習得する。(3年次) ・似合わせヘア、クイックチェンジ等のヘア高度技術・知識、シャンプー・ブロー技術、ヘアカラー知識を習得する。(3年次) ・就職現場に合わせた高度技術・知識を習得し、現場実践力を習得する。(3年次選択) ・スキルアップ技術として、アイラッシュ技術、エアブラシ技術、撮影技術上級を習得する。(3年次選択) ・着付けプロレベルとしての応用技術・知識を習得する。(3年次) ・美容現場において英会話で接客できる技術を習得する。(3年次)				
成績評価の基準・方法				
(概要) 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えている。 第4章 単位認定 第7条(単位認定方法) 各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 (1) 授業出席率が75%(アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%)以上であること。 (2) 総合評価点が60点以上であること。 第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される 「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。 第10条(学期末試験・評価) 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く) 第11条(成績評価ランク) 算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。				
総合評価点	ランク	グレード ポイント	可否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。
2 GPAの適用				

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP (Grade Point) を与え、取得したポイント (GP×単位数) の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。

(進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。

学修支援等

(概要)

- ・クラス担任による指導、出欠確認
- ・電話による対応 ・担任面談
- ・保護者会

卒業者数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)

	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
	45人 (100%)	0人 (0%)	38人 (84.4%)	7人 (15.6%)
(主な就職、業界等) AFLOAT、GIEN、studio TVB、YARD、FOF、SOLAS、NOISM、アトリエはるか、Assort tokyo、エスペラント、アーティストアシスタント など				
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導 (説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など) ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談など				
(主な学修成果 (資格・検定等)) ・JBMA メイクアップ技術検定 Expert コース 93.3% (42人/45人) ・国際アイラッシュ資格2級 76% (19人/25人)				

(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
171 人	10 人	5.8%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

※2023 年度をもって廃止のコースの為、卒業生情報のみ記載

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程		トータル・メイク学科 特殊メイク・造形アーティストコース		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼間	単位時間／単位		単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
一人		一人	一人	一人		一人		一人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
成績評価の基準・方法
（概要）
卒業・進級の認定基準
（卒業の要件）
学修支援等
（概要）

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
10 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	10 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） Mテック、Artword、グローウィング、日本サンモルド など			
（就職指導内容） ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画、招聘、実施 ・就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など） ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談など			
（主な学修成果（資格・検定等））			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名		学科名		専門士		高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程		トータルビューティ基礎学科		—		—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数		開設している授業の種類					
				講義 240	演習 660	実習	実験	実技	
1 年	昼間	856 単位時間／単位		単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
				900 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数	
24 人		14 人	0 人	2 人		5 人		7 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も３月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Ｗｅｂサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/ 【教育目標】 ネイル・メイク・ヘアなどのトータルビューティに関する知識や技術を幅広く学び、２年目以降の進学先コースの選択につなげる。ならびに、接客知識、英語もしくは韓国語でのコミュニケーション力の基礎を身につけた人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。 （専門力） ・「サービス接客検定３級」を取得していること、もしくは同等の技術を習得していること。 ・進学先コースの業界特性や身につけるべき専門力を理解した上で、進学先の選択が出来ること。 ・進学先コースに抛らず、美容業界に携わる者として外部に情報発信が出来ること。 （人間力） ・柔軟な思考力を持ち、多様な意見を受け入れつつ、自身の意見を発信できるようになる。 （国際力） ・自身が選択した言語の基礎を習得し、グローバルな人材層に接客対応するための基礎を身につける。 （ICT 活用力） ・ＩＣＴを活用し、情報処理能力と発信力を高め、ＳＮＳを正しく有効に使用できるようになる。 【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得するために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。 ・美容師になるために必要な知識を理解する。（１年次） ・ビューティアドバイザーになるために必要な知識を理解する。（１年次） ・ネイリストになるために必要な知識を理解する。（１年次） ・メイクの基礎技術・知識を習得する。（１年次） ・色彩、アート、ファッションの基礎技術・知識を習得する。（１年次） ・セルフプロデュース、プレゼンテーションの基礎技術・知識を習得する。（１年次） ・英語か韓国語の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。（１年次） ・撮影技術、データ加工技術の基礎を習得する。（１年次）
成績評価の基準・方法
（概要） 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。 第４章 単位認定 第７条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- (1) 授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%）以上であること。
 (2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点） 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される
 「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点） 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）
 各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）
 算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	可否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + 0 \times \text{「F」の単位数}) \div \text{総履修登録単位数}$
 ※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

（卒業の要件） 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、56単位を修得しているものに対して、

学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 進級該当学年の各コースに設定された単位のうち、58 単位を修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。
学修支援等
(概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (0 %)	0 人 (0%)	0 人 (0%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容)			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
(備考) (任意記載事項) 2024 年度新設コースのため、卒業対象者なし			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程	プロ専科 トップスタイリスト コース	－		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義 90	演習 810	実習	実験	実技

1 年	昼間	856		単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		単位時間／単位		900 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数		兼任教員数		総教員数
40 人		17 人	0 人	2 人		3 人		5 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も 3 月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Web サイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/ 【教育目標】 美容師資格を保有した上で、最短スタイリストデビューを可能とする即戦力技術を持つ人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。 （専門力/人間力） ・学内美容サロンアンベリアルでカット/カラー/シャンプーの実務経験を経ること。 ・City&Guilds 国際美容技能試験 Module3 に合格すること。 （国際力）・美容サロン現場において英会話で接客できるようになること。 （ICT 活用力） ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになること。 【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容師になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。 ・学内美容サロンアンベリアルで多数のお客様にカット/カラー/シャンプーの施術を行う。 ・世界基準の美容サロンワーク技術を習得する。 ・カラー薬剤/毛髪・皮膚科学の応用知識を習得する。 ・サロン経営に関する知識・技術を習得する。 ・インターンシップにより外部美容サロンでのアシスタント経験を積む。 ・美容サロン現場において英会話で接客できる技術を習得する。	
成績評価の基準・方法	
（概要） 山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。 第 4 章 単位認定 第 7 条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。 （1）授業出席率が 75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は 80%、	

2022年度生より全科目85%)以上であること。

(2) 総合評価点が60点以上であること。

第8条(総合評価点) 各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条(平常点・課題点) 平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条(学期末試験・評価)

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。(アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く)

第11条(成績評価ランク)

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	可否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPAの適用

GPAとは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPAを適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP(Grade Point)を与え、取得したポイント(GP×単位数)の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPAの算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 3 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOKに掲載し、Webサイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Webサイトでも公開している。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業該当学年の各コースに設定された単位のうち、54単位を修得しているものに対し

て、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。
学修支援等
(概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）				
	卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
	22 人 (100%)	0 人 (0%)	22 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) grico、SCREEN、Lim、MODE K's、ラシェンテ、FURUSHO、YARD、apsee、 La Bless、i.TOYONAKA、i.osaka、PERCUT、tranq など				
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など）、 履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談など				
(主な学修成果（資格・検定等）) ・CITY&GUILDS Hairdressing Module3 54.5%（12 名/22 名）				
(備考)（任意記載事項）				

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
26 人	4 人	15.4%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
衛生		衛生専門課程	美容科		○		－	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義 786	演習 1644	実習	実験	実技	

2 年	昼間	2010 単位時間／単位		単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
				2430 単位時間／単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数		専任教員数	兼任教員数	総教員数		
180 人	60 人	3 人		8 人	10 人	18 人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 本校では教科主任教員がカリキュラムポリシーに基づいて、授業内容、到達目標、成績評価方法を設定し、科目ごとの授業計画も3月中に教員間で共有され、学生には初回授業で配布説明されている。また、Webサイト上でも全ての必修科目の授業計画が公開されている。URL: https://www.ecc.ac.jp/syllabus/art/ 【教育目標】 美容師国家資格を取得する知識・技術を修得すると共に、美容室でのサロンワーク・接客技術を理解した自ら動ける・考えられる能動的な人材を育成する。 【ディプロマポリシー】 コース教育目標に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修めかつ、卒業までに指定された資格・検定・科目 もしくはこれに準じる基準に合格した学生に対して卒業を認定する。 （専門力） ・「美容師国家試験」に準じる学内卒業試験に合格していること。 ・薬剤知識/毛髪科学知識/カット&カラー技術を保有し、実践的な技術を習得していること。 ・ヘアメイク/撮影技術修得に準拠した作品を制作すること。 （専門力/人間力） ・City&Guilds Hairdressing for Pre-Assistants に合格すること。 （国際力） ・美容サロン現場で使用する英会話定型フレーズを用いて接客できるようになること。 （ICT 活用力） ・ICT を活用し、情報処理能力と発信力を高め、SNS を正しく有効に使用できるようになること。 【カリキュラムポリシー】 ディプロマポリシーに掲げる力を習得した美容師になるために、以下の意図をもってカリキュラムを構成している。 ・美容師国家試験の実技試験に準拠した基礎技術を習得 する。(1 年次) ・英会話の基礎となるフレーズを習得し、異文化を理解できるグローバルマインドを育成する。(1 年次) ・薬剤・化粧品知識/毛髪・皮膚科学知識/カラー知識を習得する。(1 年次) ・美容師国家試験の実技試験に合格できる技術を習得 する。(2 年次) ・美容師国家試験の学科試験に合格できる知識を習得 する。(2 年次) ・実践的なカット&カラーの技術を習得する。(2 年次) ・実践的なヘアメイク/撮影技術を習得する。(2 年次) ・学内サロンにて実践的な美容サロンワーク・アシスタント業務・接客技術を習得する。(2 年次) ・グローバル社会に対応すべく、美容サロンで使用する英会話定型フレーズを用いて接客できる技術を 習得 する。(2 年次)

成績評価の基準・方法

(概要)

山口学園教務規約にて、以下の通り記載し、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えている。

第4章 単位認定

第7条（単位認定方法）各科目の単位認定は、以下の基準を全て満たすことで行う。

- （1）授業出席率が75%（アーティスト美容専門学校美容科実習科目は80%、2022年度生より全科目85%）以上であること。
- （2）総合評価点が60点以上であること。

第8条（総合評価点）各授業または単元終了時の「テストの点数」及び授業の取り組み状況から決定される

「平常点」・「課題点」から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第9条（平常点・課題点）平常点と課題点は、授業の取り組み状況から決定される。点数配分は各科目の内容により異なる。

第10条（学期末試験・評価）

各科目の評価は前期・後期それぞれの期末に実施する。評価結果は保護者または保証人に郵送通知する。（アーティスト美容専門学校美容科通信課程を除く）

第11条（成績評価ランク）

算出された総合評価点に基づき、下記のように成績評価ランクを決定する。

総合評価点	ランク	グレード ポイント	合否	基準
90点～100点	A	4.0	合格	特に優れている。
80点～89点	B	3.0	合格	優れている。
70点～79点	C	2.0	合格	一定の水準を満たしている。
60点～69点	D	1.0	合格	最低限の理解をしている。
0点～59点	F	0.0	不合格	学習目標に達していない。

2 GPA の適用

GPA とは“Grade Point Average”の略で、学生の成績評価方法の一つであり、本学では学生自身が学習効果を数値化して把握するため、GPA を適用している。履修した科目の評価「A」、「B」、「C」、「D」、「F」に対して、それぞれ「4」、「3」、「2」、「1」、「0」のGP（Grade Point）を与え、取得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録された総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値である。

3 GPA の算出方法

$(4 \times \text{「A」の単位数} + 3 \times \text{「B」の単位数} + 2 \times \text{「C」の単位数} + 1 \times \text{「D」の単位数} + \text{「F」の単位数} \times 0) \div \text{総履修登録単位数}$

※特別単位はGPAの計算に算入されない。

HANDBOOK に掲載し、Web サイトでも公開。

https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf

卒業・進級の認定基準

(卒業の要件) 教育目的に基づいた教育目標・ディプロマポリシー・カリキュラムポリシーを分野ごとに定めており、HANDBOOK 掲載によって学生および保護者に伝えていると同時に、Web サイトでも公開している。 https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/eccart_HANDBOOK.pdf 設定された単位の全てを修得しているものに対して、学年末に卒業判定会議を開催し、学校長が卒業を認定する。 (進級の要件) 設定された単位の全てを修得しているものに対して、学年末に進級判定会議を開催し、学校長が進級を認定する。 学修支援等 (概要) ・クラス担任による指導、出欠確認 ・電話による対応 ・担任面談 ・保護者会

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29 人 (100%)	17 人 (58.6%)	12 人 (41.4%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) GRANMASH、SCREEN、STAGE、GAME by Alansmith、Lanterdit、alo、Lego Hair、dote、Luis など			
(就職指導内容) ・求人情報提供、・業界／職種研究指導、・学内企業説明会企画・招聘・実施 ・就職活動ノウハウ指導（説明会参加マナー、筆記試験対策、面接試験対策など） ・履歴書添削、・面接指導、・就職保護者会、・未内定者面談など			
(主な学修成果（資格・検定等）) ・美容師資格 100%（29 名/29 名）			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
60 人	4 人	6.7%
(中途退学の主な理由) 金銭面、進路変更、人間関係等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生面談、保護者会、出欠管理、担任制、学生相談室誘導、学生アンケートの実施等		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
アーティスト学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータル・メイク学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
プロ専科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
美容科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
トータルビューティ基礎学科	80,000 円	920,000 円	220,000 円	その他は「施設設備費」
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法	
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/art-self.pdf	
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）	
本校では「学校評価実施規定」に則り、年間2回学校関係者評価委員会を開催している。当委員会では、下記の評価項目に関して各年度に自己評価を実施し、状況確認と課題抽出、対策案の策定等を実施する。この結果を受けて、半期以内を目処に自己評価委員会、教職員会議、コースデザイン会議等で改善策を図り、次回の学校関係者評価委員会で状況を報告する。2023年度は8月28日、2月29日に開催し、自己評価報告書に基づき確認、討議、改善策の構築等実施している。2023年度改善された項目として、企業連携による実践的な学習の推進、保護者連携等が挙げられる。学校の理念、教育目標の浸透、保護者連携、学生の意欲向上方法に関して提案をいただいている。なお、2022年度の「自己評価報告書」ならびに2023年度「学校関係者評価委員会報告書」を学園ホームページ上に公開している。	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか
(2) 学校運営	・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ・人事、給与に関する規定等は整備されているか

	・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3) 教育活動	・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 ・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4) 学修成果	・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。
(5) 学生支援	・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか

	・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	
(6) 教育環境	・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか	
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか	
(8) 財務	・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか	
(9) 法令等の遵守	・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか	
(10) 社会貢献・地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	
(11) 国際交流	・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか ・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか ・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか ・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
株式会社クラフト・ワークス	2 年 2023. 4. 1～2025. 3. 31 (任意更新)	分野企業
株式会社ガモウ関西	2 年 2023. 4. 1～2025. 3. 31 (任意更新)	分野企業
一般社団法人ジャパン・ビューティーメソッド協会	2 年 2023. 4. 1～2025. 3. 31 (任意更新)	分野協会
高等学校講師	2 年 2023. 4. 1～2025. 3. 31 (任意更新)	高校等関係者

済美地域社会福祉協議会	2 年 2023. 4. 1～2025. 3. 31 (任意更新)	地域関係者
卒業生	2 年 2023. 4. 1～2025. 3. 31 (任意更新)	卒業生代表
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/art-school-202309.pdf https://www.ecc.ac.jp/outline/self-evaluation/pdf/art-school-202403.pdf		
第三者による学校評価（任意記載事項） https://art.ecc.ac.jp/aboutecc/publish/pdf/art_avaluation.pdf (2022 年度受審)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://art.ecc.ac.jp/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	H127310001799
学校名（〇〇大学 等）	ECCアーティスト美容専門学校
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人山口学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		87人	81人	90人
内 訳	第Ⅰ区分	56人	52人	
	第Ⅱ区分	－	－	
	第Ⅲ区分	－	－	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				90人
(備考) 前半期において遡及取消が発生、対象数から除いて記載。 第Ⅲ区分が1名以上10名以下のため秘匿措置、合計数から類推できるため次点少数の第Ⅱ区分も秘匿措置を実施。				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	0人	-
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	-	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-	-	-
「警告」の区分に連続して該当	-	-	0人
計	-	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	-	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	11人	-	-
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	-	-	-
計	11人	-	-
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。